

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 108	提案機関名 かながわ西湘農業協同組合
要望問題名 野生鳥獣を寄せ付けない効果的な忌避物質を用いた被害防止技術開発について(継続)	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 近年、野生鳥獣による農作物被害が急増しており、農業者が被害を受けても防除方法等の解決策が難しいことから、営農意欲の減退や耕作を諦めたりして、耕作放棄地に繋がっているケースも少なくありません。農家自ら狩猟免許を取得し、猟友会等と連携した駆除対策に取り組んでおりますが、捕獲という手段は被害防除対策によっても被害等が防止できない最終的な手段であります。 また、捕獲以外の被害防除対策として、過去にはイノシシの忌避効果があるとされていた青色発光ダイオード(LED)ライトや狼の毛を購入し、効果を検証したところ、効果は一時的なもので期待できるような忌避効果は確認されませんでした。今後、農作物等に野生鳥獣の効果的な忌避物質を用いた被害防止技術の試験検討をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究連携課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	森林における野生鳥獣対策は、特定の作物(造林木)への被害防止ではなく、森林生態系のバランスを損なう要因除去として捉えています。また、神奈川県内の森林地帯の多くは水源地域でもあり、薬剤の使用リスクについても配慮が不可欠です。そのため、自然環境保全センターでは、ワイルドライフマネジメントの3要素のうち、個体数管理、生息地管理に重点を置いて取り組んでいるところです。このため、忌避剤の効果検証については研究課題として優先的に取りあげる方針ではありません。 対応としては、当センターの個体数調整や生息地管理をはじめとした野生動物保護管理対策の取り組みの内容や得られている知見についての情報提供により支援をしたいと考えております。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			